

# 天声教会 1部礼拝 週報

〒231-0058 神奈川県横浜市中区弥生町 2-17 ストークタワー大通り公園 I -201  
TEL/FAX 045-326-6211

## 礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

賛美	何という愛 (Faith97 vol2 #3) 18
霊の祈りと御言葉	Faith97 vol2 #4
賛美	復活 (Faith97 vol2 #2) 19
使徒信条	会衆一同
交読文	15
祈り	
メッセージ	栄光の家系の女達 - ウリヤの妻 (Ⅱサムエル 11 章)
祈り	
賛美	復活 (Faith97 vol2 #2) 19
主の祈り	会衆一同
祝福の祈り	メッセンジャー
報告	

## 祈祷課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・奉仕者が与えられるように: 礼拝準備、賛美リード、奏楽

## 祝福の御言葉 下線を自分にあてはめて祈りましょう

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(2 コリント 5:17,21)  
 こういって、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。(ローマ 8:1-3)  
 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。(エペソ 1:23)

ダビデ王の部下が皆戦争に出ているある夕刻、彼自身は昼寝から覚めて宮殿の屋上を散歩していると、大層美しい女が水浴びをしているのを見つけた。(Ⅱサムエル 11 章) 彼女がマタイ 1 章の系図 4 番目の女性、今回主題とする、ウリヤの妻バテ・シェバである。ダビデは情欲にかられ、彼女がウリヤという夫ある身であるのを知りながら床を共にし、そのたった一度の情事によって彼女は身籠った。

それを知ったダビデは、忠実な部下である夫ウリヤを謀殺し、彼女を妻にした。主が預言者ナタンを通してダビデの罪を指摘した時、彼はへりくだって自分の罪を認め、主に赦されたが、その子は主に打たれて、ダビデも生涯、剣の災いに悩まされた。

あの輝かしい実績を残したダビデでさえ、この一夜の情事によって汚点を残してしまった。ダビデは隠れてこの事を行い、絶大な権力と謀略をもって自分のした事を隠蔽しようとしたが、隠れているものであらわにならぬものはなく、結局は主の光に当てられ、永遠に残る書・聖書に記されてしまった。(ちなみにウリヤはヘブル語で「主の光」の意)

今まで取り上げて来た三人は信仰によって行動した結果、栄光の家系に加えられたが、バテ・シェバ自らは特に何もしていない。なぜ彼女が栄光の家系に名を残したのか。ダビデには正しい手続きを踏んで結婚した妻がたくさんいたのに、なぜよりによって、唯一、正しくない手続きによって妻となった「ウリヤの妻」による子が選ばれたのか。

ダビデは確かに罪を犯した。しかし、彼が罪を認めて告白し、赦しを乞うた(詩篇51)からこそ彼は赦され、罪をきよめられたのである。

詩篇51:7のヒソブは、過越祭にてほふられた子羊の血を塗るのに使われており、ダビデは罪なき者の犠牲によって生き長らえた。わざわざ「ウリヤの妻」による子が選ばれたのは、人には罪がある事を思い起こさせるためであり、それを超えた神の憐れみを一層思い起こさせるためであると思われる。

ダビデの罪が永遠に記されたように、私達の犯してきた罪も、永遠の記憶に残る。ラザロを憐れまなかつた金持ちは地上での事を思い出して永遠に後悔し(ルカ 16)、黙示録に登場する 24 人の長老は冠を御座の前に投げ出して「主こそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方」であると告白するのはそのためである。(黙示録 4:10) しかし、イエスを信じた私達の記憶の中にある罪は、神の御前では無いものとして扱われている。イエスはただ一度、罪の為に死なれ、流された血によって罪は覆われたから。人間が唯一作った永遠に残るものといえば、イエスの手、足、脇腹の傷跡のみである。その事を知る時、神の前で、人はとても冠などがぶつたままではいられない。ほふられた子羊、主こそ、唯一栄光と誉れを受けるにふさわしい方だ。

「ダビデ(最愛、愛された者)に、ウリヤ(主の光)の妻(バテ・シェバ(誓いの娘、安息日の娘))によってソロモン(平和、最も平穏な)が生まれ」(マタイ 1:6)系図の中のこのくだりを読む度に、人間の罪深さと神の深い憐れみ、キリストの血の尊さを思い出すのである。